細川信二　一般質問報告

今年９月の定例会で一般質問を行いました。秋田市議会では原則１人につき年に１度質問の機会があります。これまでの３年、県・市連携文化施設の計画や観光振興、土崎港曳山まつりや竿燈など伝統文化等に関する様々な質問を行ってきましたが、今年は主に小・中学校の適正配置と子どもたちの学びの環境の２つを質問の柱にしました。

３年前の初登庁時には３歳と０歳だった我が家の子どもたちも、皆様に支えられ、おかげさまで小学１年と年少さん（認定こども園）になり、私自身子育てに向き合い経験してきたこと、また知り合ってきた親御さんからの声を聞き、直面している問題等をおりまぜ質問したわけではありますが、保育所や放課後児童クラブ（学童クラブ）の待機児童問題等については、世代の議員こそリアルタイムな質問ができること、これこそ今の私の使命なのだと感じております。また、今回、子どもの安全面では「秋田っ子まもるメール」についての提言で、新たな流れを生み出すことができましたのは一歩の前進と自負しております。

このほかにも地域の課題、秋田港の観光面などの質問をさせていただきました。もちろん提案＝実施というわけではありませんが、変革に結び付くこともあります。ここに一部を抜粋し趣旨を掲載したいと思います。

小・中学校の適正配置について

- 適正配置を進めていくうえでの秋田市の覚悟
- 市民説明会での保護者意見と配置案への反映、未就学児の保護者の声
- 適正配置と地域の伝統文化

現在秋田市（教育委員会）では、統廃合を含む小・中学校の適正配置案を、平成 31 年３月を目標に公表し、４月以降この配置案をもとに地域や保護者との協議を行うこととしています。統廃合を含む学校の適正配置について、私は学校の果たす一番の役割は児童・生徒の学びの環境であると考えており、子どもファーストで考えた場合、複数の学級を編成できる学校の一定規模化には、多様な考えに触れる機会を増やすこと、保護者も含めた人同士の関わり、教職員の配置など様々な面を考慮し有意義と思え、必要と考えます。しかしながら、同時に学校は地域の宝であり、地域活動の基盤でもあります。また、災害時に学校が果たす避難所としての役割、この夏各地で起きた災害の報道にふれ、地域から学校が無くなることの不安を市民が感じることは容易に想像でき簡単に統廃合すべき！と舵を切ることもできません。さらに学校は地域の伝統文化とも深い関わりを持っています。

今後計画を進めるにあたっての秋田市としての考え、また市民説明会での市民からの意見をどのように反映するのか、地域の伝統文化と学校の関わりなどについて質問しました。

文化振興について

- 伝統文化振興に貢献する企業の認定制度
- 県・市連携文化施設について

現在秋田市で行っている「元気な子どものまちづくり企業認定」は、仕事と子育ての両立支援や、子育てにやさしい活動に取り組む企業等を認定するもので、子育てを社会全体で支える気運を高めるものとなっています。これを見本に、伝統文化の振興に関する同様の認定制度を設けることはできないものかと考えます。

例えば竿灯まつりや土崎港曳山まつり等、地域の祭りに参加する際に休暇を取りやすくしている企業を市が認める文化振興認定企業にする。なんだか楽しく思えませんか。現実は様々な課題、検討事項がありますが、秋田市がそんな伝統文化を尊重する街になればとの思いで提案しました。また、議員１年目から継続して行ってきた、私のライフワーク“音楽文化”に関連する、県・市連携文化施設について、今年は運営管理についてもっと民間企業の声を聞き、連携すべきとの提案をしました。

一般質問とは？…

議員が市政全般にわたって、執行機関に対して事務の執行状況や将来に対する方針などを質問することです。

秋田市では原則各議員年１回、質問時間は１回目の質問時間が30分以内、以後の質問については20分以内の制限となっています。

子供たちの学びの環境整備と子育て支援の充実について

- 国の幼児教育・保育の無償化
- 保育士の人材確保（施策の成果と新たな施策／研修に参加しやすい環境づくり）
- 放課後児童クラブ（地域による利用格差／利用状況の把握と今後の対応／学校教室等を活用したクラブ運営）
- 病児・病後児保育事業及び私立保育所等障がい児保育事業
- 保育施設の兄弟入所（同一施設への優先入所）
- SNS やアプリ等を活用した子育て支援
- 秋田っ子まもるメールのブラッシュアップ

今求められているのは少子化対策ではなく、子育て支援という視点。この２つの言葉は似て非なるものと考えます。子育て世代に寄り添った施策をいかに考えるか、秋田市が子育てしやすい街となるようこの４年間、様々な視点で提言を行ってきました。

平成 31 年 10 月には国による幼児教育・保育の無償化が実施予定です。現在、秋田市でも保育料無償化事業を行っていますが、将来的に市の経費の負担軽減が予想されることから、この軽減分の財源を新たな子育て支援へ活用すべきとの考えで、今年も子育て支援に対する質問を行いました。

まずは保育所等の待機児童の問題。この問題の大きな要因は、保育士不足であり、その人材確保と既に働いている保育士への支援はもっと積極的に行うべきと考えます。給与面や労働環境など、残念ながら待遇が良い職業とは言えず、離職率も高い現状です。ここを改善しないことには待機児童対策を解決することはできません。「大人になったらなりたい職業」は今も保育・幼稚園の先生が上位です。そんな子どもたちの夢を大人が壊してはいけません。また、幼児期の教育についてはその重要性が認められており、現実そこに携わっている先生たちには相当のスキルがあります。先生たちがしっかり働ける環境作りが急務です。

保育所同様に課題と言えるのが放課後児童クラブ（学童クラブ）の問題です。この数年、市の施策の成果もあり、定員も拡大されてはいますが、現在でも地域により利用できない、待機児童が発生するなど課題があります。今後、幼保無償化が進むことにより、クラブの利用希望者も増えると考えられることから、対応が急務です。この他にも兄弟姉妹が同一の保育所に入所できない、病児・病後児保育及び障がい児保育など保育に関連する課題もあります。

子どもが小学校に通い始めてから特に疑問に思ったこと、また保護者の皆さんと話していてよく伺うことに、秋田市が学区内の不審者情報などを発信している「秋田っ子まもるメール」がありました。運用開始から 12 年目、子どもたちの安全のために、情報の共有ツールとして重要なものとなりましたが、今年の夏休み中に起きた連れ去り事件や頻繁にメールで届く不審者情報を目の当たりにし、現状にとどまることなく、地域との連携をさらに強固にし、磨き上げていくことも重要と思います。今回はこのメールの内容について、特に意見や要望の多かったより詳細な発生場所の通知や発生後の状況などを含め検討すべき時期ではないかとの趣旨で質問しましたが、ありがたいことに早々に検討いただき、解決事案の発信については早速行ってもらうことができました（この件については９月14日と10月11日の秋田魁新聞に記事掲載されました）。私としては、まだ改善していくべき点があると思うので、引き続き提言していきたいと思います。

その他の質問

◎ イージス・アショアについて

◎ 秋田市立地適正化計画と都市内地域分権について
- 土崎地区と新屋地区のこれまで
- コンパクトシティの周知
- 市内７地域の特色
- 市民サービスセンターへの権限移譲

◎ 交通施策（交通指導隊員の確保）について

◎ 秋田港周辺の観光振興について
- クルーズ船来航時等の対応
- 釣り公園試験開放の評価

地元・土崎にとっても大きな話題となりました「クルーズ船来航時の対応」と「釣り公園試験開放の評価」については、今後観光振興に活かすためにも現状の本市の考えを、また交通施策として子どもたち、そして市民の安全のため、日頃からご尽力いただいている交通指導隊員の皆様の想いにお応えする意味も込め、隊員の減少、高齢化に伴う隊員の確保が今後大きな課題となっていくことについての考えを伺いました。

TOPICS

風しん抗体検査と予防接種の助成

全国的に風しん患者が増加していることをうけ、秋田市でも妊婦の感染を早急に防ぎ、先天性風しん症候群の発生を予防するために、12月10日から抗体検査費と予防接種の助成事業を行います。

- 抗体検査費助成事業　対象：妊娠を希望する女性や配偶者等（費用の全額を市が負担）
- 予防接種費助成事業　対象：抗体検査の結果、抗体価の低い妊婦を希望する女性や配偶者等（費用の一部助成）

詳しくは秋田市保健所健康管理課（TEL.018-883-1180）でご確認ください